

## 【第22回環境審議会の詳細】

日時 平成29年7月4日 13:30～15:50

場所 ニセコ町役場第2会議室

出席 本間泰則委員、柴田真年委員、黒滝 博委員、阿部武吉委員、牧野雅之委員、新谷志織委員、猪狩和大委員、葛西奈津子委員、澤田健人委員  
片山町長、山本課長、大野係長

欠席 中川 明委員

### 主な内容

- ・平成28年度環境に関する主な取組、住民からの環境評価レポート
- ・平成29年度の環境に関する主な取組予定
- ・地熱理解促進事業について
- ・エネルギー構造高度化・理解促進事業について

## 1 開会

### 2 町長挨拶

委嘱状を皆さんの席に置かせていただいている。環境審議会は2001年からはじまり、今回で22回目となる。最近町内のあちこちで開発がはじまったが、町には景観条例や水資源の条例などの規制がある。規制を緩めるようにという要望も多いが、ニセコ町は一環として乱開発を許さないという姿勢で、緩めることは考えていない。

### 3 会長・副会長の選出

各委員及び事務局から、審議会に臨む問題意識や自身の取組について自己紹介を行った。ニセコ町環境審議会設置条例に基づいて、会長、副会長を互選により選任

- 会長：本間泰則氏
- 副会長：阿部武吉氏

### 4 報告事項

- ・第2次環境基本計画に基づく平成28年度環境に関する主な取組（資料1）
- ・環境モデル都市に関する平成28年度の環境に関する主な取組（資料2）
- ・環境白書について
- ・住民からの「環境評価レポート」～ニセコ町の太陽光発電導入状況（資料3）

資料1、2について事務局より説明を行った。環境白書についてコミュニティ研究所から、資料3について、ニセコ環境評価の会から説明を行った。

#### 【質疑・意見等】

- ・北電と王子伊藤忠エネクスの比較があるが、北電の数値はどのように推計したのか。  
→北電は平成27年度の実績値、エネクスは平成28年度の実績値である。
- ・ほとんどの施設で数値が増えているのはなぜか。  
→たとえば役場も4%増えているが、明確な理由はわからない。有島記念館が17%も増えたのは、灯油式から電気式のエアコンに交換したことによる。
- ・この会議室も半分しか使っていないのにすべての電気がついている。蛍光管を抜いても安定器に電気が流れるので、すべてひもをつけて、元から切るようにしたほうがいい。うち

のホテル宴会場は用途別にスイッチに色をつけて、掃除のときはこのスイッチを入れるなど表示をしている。

- ・ニセコ環境評価の会の太陽光発電のレポートが興味深かった。関心はあっても、どう始めたらいいのかわからない方が多いと思うので、わかりやすく形にして民と官と一緒にやっていけるといい。環境白書の概要版は立派だが、去年の環境評価レポートにあったごみの分別の際に、せっかくプラスチックごみを仕分けても、1つでも汚れたものが入ると資源にならないなど、もっと実用的な情報をだすのもいいのではないか。
- ・資料2のB 温室効果ガスの削減・吸収量について、平成27年度の数値にリバイスが必要とのことだったが、森林の吸収量はカウントしないのか。
- 森林の吸収量をカウントするためには、森林の手入れが必要。ニセコ町では吸収のための森林林業をしていないため、カウントしていない。下川町など林業が盛んな地域はカウントしている。
- ・環境評価の会からの町への提案にあった「太陽光発電アドバイザー」の認定など、町としての考えはどうか。
- 様々な取り組みをしようとする、どうしてもお金が必要になる。新電力に切り替えたことによる削減分300万円を原資にして、取組成果循環予算という名前で、エネルギーや資源の循環のために活用することができる。太陽光発電に関してもこの予算の活用がえられる。
- ・J-クレジットは活用できないのか。
- 先日、鶴雅観光開発をはじめ3者から40tの寄付を受けた。また、町のLED街路灯などの取り組みにより100tをJ-クレジットとして登録する作業を進めている。寄付分はラジオニセコの運営から排出されるCO2の相殺に活用するが、100tは販売することも可能。ただ、町としては、お金にするのではなく、町のイベントや施設から排出されるCO2を相殺することで活用する方向で考えている。
- ・電気料金は削減できたが、同時に節電努力を進めていくことが大事。
- 太陽光発電に関しては、パンフ作成などお金をかけないで対応できることも多いので、できるだけ対応したい。
- ・環境モデル都市を町として進めていくはずなのに、なぜ担当者の人数が減ったのか。
- 年内には1人追加されると思う。

## 5 審議事項

- ・平成29年度の環境に関する主な取組予定（資料4）
- ・地熱理解促進事業について（資料5）
- ・エネルギー構造高度化・理解促進事業について（資料6）

資料4～6について事務局より説明を行った。

- 今年度は大きく地熱理解促進事業とエネルギー構造高度化・転換理解促進事業を進める。
- ・2年前のグリーンプラン・パートナーシップ事業の繰り返しにならないように、プロセスを共有して進めてほしい。

## 自由意見交換

- ・エネルギー構造高度化・理解促進事業プロポーザル審査委員の募集と7/10の地熱理解促進事業協議会の案内
- ・エコナイトカフェの開催案内

- 先日阿寒でイランカラッテ音楽祭を開催した。チラシに使用する紙はカーボンオフセットであると同時に、東北経済復興を支援している。今後、鶴雅観光開発で使用する紙はすべてこの紙を使用する予定。ニセコ町で使用する紙もそのようにしたら、非常に話題性がある。
- ・有島地区でどんなことが起きているのか。
- 例えば役場前で行っていた水道管工事が出た土砂の廃棄を、有島地区の民地で受け入れている。かなりの木が伐採されて、灌漑溝支線が一部埋められてしまった。一部うちの土地の木も伐採された。逆に山を削って土砂の採掘が進んでいる場所もある。環境・景観を守るといのは簡単だが、個人の財産の規制に関わるので、慎重なルール作りやコミュニケーションが必要だ。
- ・6/10の大雨でセブンイレブンの裏で木を伐採したため、うちの敷地に土砂が流れてきて大変だった。木はかなりの保水力があるので、伐採してしまうと様々な問題が起こる。
- ・景観条例があるが、カバーし切れていない。住民みんなで自然を守っていける仕組みがあるといい。
- ・役場に環境 SOS の窓口を作ったらどうか。
- 単純にやめてもらえばいいという話ではない。景観条例を作るときにも業者や町民に入ってもらってだいぶ議論した。携帯電話の鉄塔が立つときに、ざっくりいうと移住者は反対、元からの住民は便利になるのになぜ反対するのかわからないという状況だった。議論する中で40mのものを25mくらいにしてもらおうなど様々な議論の積み重ねがあった。
- ・20年以上前だが、釧路市でも他地域のごみを処理する施設が高校のすぐ近くにできて、問題になった。
- 新幹線工事が出る土砂を捨てる場所についても議論がある。役に立つので使いたいという人もいる。
- ・ルールの見直しが必要ではないか。
- 個別具体的な問題の背景に全体として、今何が起きているのかを把握する必要がある。
- ・第5次総合計画を策定するときにも土地利用のあり方について議論があった。町としては、景観条例や準都市計画があり、かなり厳しく規制しているという認識だった。対処療法的では対応できないので、これからは町全体として、なにが望ましいのかが必要と伝えたが、そのときには理解が得られず、総合計画の記載は、あいまいな文言となった。
- 土地利用に関しては、この場所は宅地、この場所はホテルと線引きをして、どこまで機能すのかも難しい。
- ・この地域は外資が入ってきているので、非常に難しい。パウダースノーがいつまで降ってくれるのか。外資はだめだと判断したら、去るのも早い。かなりきちんとしたものを作らないと対抗できない。
- パウダースノーが少なく、昨シーズンの比羅夫の稼働率は6割だった。
- 様々な状況の中で、状況を把握するためにも、役場に受ける窓口が必要ではないか。
- コミュニケーションが必要だと思う。今回の土砂捨てに関しても何も説明がなかった。業者、住民、行政のが話し合う場を作る必要がある。

## 7 閉会